

プログラム名	
木と学ぼう	
プログラムの概要・ねらい	
<p>「木にふれてみよう」「葉っぱのカタチ」「アートプロジェクト」を用意。実績多数。自然を五感で探索する。木や木につながるさまざまな感触をことばで表現できる。観察力を養うことができる。同じものを使う、繰り返すことでものの形を認識できるようになる。絵や文字の書けない子どもにも対抗できる。楽しく木について学ぶことができる。</p>	
プログラムの分野	
■生き物	
プログラムの対象者	
<p>■幼稚園（5歳児） ■小学校 1.2年 ■小学校 3.4年 ■小学校 5.6年 ■中学校</p> <p>■特別支援学校（■聴覚障害）</p>	
対象人数(1回に実施可能な人数)	
30人まで、グループ分けをする場合があります。要相談可能。	
実施場所	所要時間
教室、多目的室、体育館、運動場、園内	<p>※幼稚園については、休憩別</p> <p>1 アクティビティ 45分@2本=90分</p>
プログラムの実施に必要な準備物	
学校、園で準備が必要なもの	薄手の画用紙、色鉛筆、クレヨン、クリップボード
団体に準備するもの	<p>見本、葉っぱ、写真やイラスト、絵本、箱、五感カード、図鑑など解説資料</p> <p>※教材を破損された場合は、補修費をいただきます。</p>
プログラム実施に伴う安全上の注意事項、リスクの対処法 ※雨天時の対応など	
<p>植物アレルギーを持っている子どもの有無の確認が必要。屋外で行う場合は、かぶれやすい木やハチなどの危険回避のリスクマネジメントが必要。雨天時は、屋内にて行うことが可能。②冬季は12月上旬まで。</p>	





【プログラムの進め方】①木にふれてみよう！

	学習内容・活動	写真
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・始めに「木って何？」と問いかけ、木の特長を写真やイラストで簡単に説明する。「知ってる木ってある？」「幼稚園にある木ってどんな木？」 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・木と仲良くなるためのものが入っているブラックBOXを見せ、輪になるように指示する。 ・一人ずつ、BOXに手を入れて、入っているものの中から1つ素材を選び、手ざわりや感触をことばにして、みんなに伝える。スタッフや先生は、それをボードに書きとめ、ことば銀行とする。 ・全員がさわったら、BOXを開けて、自分がさわった素材を当てることを告げる。 ・BOXの中から素材を取り出し、順に並べ番号をつける。 	<p>■ブラックBOX</p> 
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・始めにさわった子どもから、どれだったかいってもらい、番号札を渡す。 ・全員が終わったら、同じ番号でグループをつくる。 ・種明かし。グループ毎に、自分がいったことば銀行を確認しながら、もう一度さわってみる。これを全グループで順に行う。 ・体験してどうだった？その素材をどこでさわった？手のひら？指？ 	<p>■箱の中身</p> 
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・このBOXに入っているものは、すべて木と関係のあるものばかりであることを告げる。 ・同じものでも人によって表現や感覚が違う。 ・木は、さまざまな形や特長を持ち、さまざまな生きものにつながっていることに気づかせる。 ・私たちも木がなくては、暮らしていけない。地球にとって、なくてはならない生きものであることを告げる。 ・むやみに傷つけないようにすること。今度、近くの公園や山にいったら、そっと近づいて木を観察するように促す。そして、何か見つけたら、発見したら、おうちの人や先生に知らせてねと告げて終わる。リスキマナージメントを忘れずに。 	<p>■ことば銀行</p>  <p>■木と生きものつながり</p>

【プログラムのアピールポイント】

- ・五感の一つである「さわる・ふれる」という感触を探究できる。
- ・木や木につながるさまざまなものの感触について、ことばで表現できるようになる。
- ・同じものを使う、何度も繰り返すことでカタチを認識できるようになる。
- ・絵や文字の書けない子どもに対応が可能。
- ・③アートプロジェクト「フロッターージュ」をこの後に体験させるとより深まる。
- ・絵本「き」「木の本」「木のうた」の活用が可能。
- ・絵本「山に木を植えました」の読み聞かせにつなげることができる。
- ・実施期間は、葉の採取の都合上、落葉するまでとする。幼児期の環境教育にも最適。




【プログラムの進め方】②葉っぱのカタチ

	学習内容・活動	写真
<p>導入</p> <p>展開</p> <p>ふりかえり</p> <p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 私たちは、5つの感覚を持っている。それは何かを問いかける。見本を示しながら五感を説明する。 • これはザラザラ。なぜ？さわったから。手のカード。 • これはお花。いい香り。花のカード。 • 先生の声や周りの音、聞こえる？何気なく過ごしていると通り過ぎる音も心を向けると聞こえる。耳のカード。 • みんな、先生の顔わかる？何で？目で見ているから。目のカード。 • 朝ごはん、食べた？美味しかった？美味しい、うまい、まずい、苦いってどこでわかる？口のカード。 • 私たちは、5つの感覚を持って生活をしているけど、もう1つ大事な感覚があることを告げ、それは何かを問う。♥である。 • モノを観察する。よく見るということは、心の窓を開けないとよく見えない。感じて気づくという6つ目の感覚が必要である。それは、みんな持っていることを告げる。心をオープンにして観察しよう。 • 箱に入っている葉っぱを1人1枚とらせて、画用紙に写し取ることを指示する。 • 葉っぱを裏返しにし、画用紙を載せて、色鉛筆かクレヨンで、その形をこすり出す。見本を見せる。 • こすり出したら、葉っぱを箱に戻す。 • 全員が終わったら、みんなで見せっこ。 • 箱から葉っぱを取り出して、広げ自分が選んだ葉っぱを探して持ち帰るように指示する。 • こすり出した葉っぱは、見つかった？見つからなかった？なぜ、見つかった！見つからなかった！ • 気づいたことをシェアする。 • 葉っぱは、さまざまなカタチをしている。それぞれに特長がある。 • 画用紙に日付と木の名前を入れると記録になる。 • 今度、公園や山に行った時、観察するように促す。そして、何か発見したら、気づいたら、おうちの人か先生に教えてねと伝えて終わる。 	<p>写真</p>  <p>■さまざまなカタチの葉っぱ</p>  <p>■葉っぱの違い</p>  <p>■五感カード</p>  <p>■葉っぱ図鑑</p>

【プログラムのアピールポイント】

- さまざまな葉っぱを比較して観察力を養うことができる。
- 木や葉っぱには、さまざまなカタチがあることを知る。
- 同じものを使う、何度も繰り返すことでカタチを認識するようになる。
- 絵や文字の書けない子どもに対応が可能。
- 公園などについて木の肌をこすり出すと発展・応用につながる。
- 絵本「葉っぱのフレディ」「わたしのもみじ」「木のうた」の読み聞かせにつなげることができる。
- 葉っぱや紅葉のしくみにつなげることができる。「たくさんのふしぎ：落葉」
- 実施期間は、葉の採取の都合上、落葉までとする。幼児期の環境教育にも最適。

【プログラムの進め方】③アートプロジェクト「フロッタージュ」

	学習内容・活動	写真
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・A4程度の画用紙、色鉛筆もしくは、クレヨン、クリップボードを用意。屋内は、葉っぱを準備する。 ・野外で行う時は、作業エリアを決め、かぶれやすい木やハチなど危険回避のリスクマネジメントが必要。 ・自分の好きな木幹や葉っぱを選ぶ。野外の場合は、葉っぱは、採取しないで、枝についたまま実施するように指導する。 	 <p>■木肌のフロッタージュ</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内の場合は、あらかじめ葉っぱを採取しておく。 ・葉っぱは、クリップボードに挟むとやりやすい。 ・木幹や葉っぱに画用紙を載せて、素材を動かさないように、色鉛筆やクレヨンで形をこすり出す。 ・葉っぱは、裏の方が形がハッキリ出る。 ・こすり出しやすいもの、そうでないものがある。 	 <p>■作品</p>
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・こすり出せたら、1ヶ所に集めてみんなで見せっこ。 ・木肌や葉っぱには、さまざまな形があることを分かち合う。 ・好きな木や葉っぱはある？ ・こすり出した時に気づいたことは？発見したことは？ 	 <p>■葉っぱのフロッタージュ</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙に木の名前と日付を書くと記録になる。 ・こすり出しのうまい下手ではなく、さまざまな形を見つけられたことを大切にする。 	

【プログラムのアピールポイント】

- ・木の肌や葉っぱ、葉脈には、さまざまな形があることに気づくことができる。
- ・採取せずに自然の形を持ち帰る方法を知ることができる。
- ・同じものを使う、何度も繰り返すことでカタチを認識するようになる。
- ・絵や文字の書けない子どもに対応が可能。
- ・こすり出しの仕方と楽しみを知ることができる。
- ・発展・応用として葉っぱジャンケンにつなげることができる。
- ・発展・応用として葉っぱでリズムセッションすることができる。
- ・実施期間は、葉の採取の都合上、落葉までとする。幼児期の環境教育にも最適。